冬期休日夜間診療・冬期小児休日診療のお知らせ



問合せ　健康増進課☎(42)8421

インフルエンザなどが猛威を振るう冬期に限り、休日夜間診療・小児休日診療を実施します。

❄冬期休日夜間診療

診療日時	12月6日～令和9年3月14日の日曜、祝日、年末年始(12月31日～令和9年1月3日) 19:00～22:00 ※受付は18:30～21:30。
診療科目	内科

冬期小児休日診療

診療日時	12月29日、30日、令和9年1月10日～3月14日の日曜、祝日 9:00～12:00
診療科目	小児科

※詳しい日程は、広報紙または市ホームページで毎月お知らせします。

受診の注意

- 必ず受診前に医療機関に電話連絡してください。
- 発熱などの症状がある場合には、あらかじめ医療機関にお伝えください。
- お薬を飲んでいる場合は、お薬手帳をお持ちください。

ねんりんピック彩の国さいたま2026 出場選手の紹介



問合せ　介護福祉課☎(42)8438

幸手市から「ねんりんピック彩の国さいたま2026」に出場する選手を紹介します。

※同意を得られた人のみの紹介となります。

氏名	種目
森田　勝彦	軟式野球
豊幾　賢二	弓道
小畑　幸二	ボウリング
瀬田　紀子	レクリエーションダンス
逆井　恵子	レクリエーションダンス

(敬称略)

日頃の研鑽の成果を存分に発揮され、多くの人と交流を深め、大会を楽しんできてください。

みなさんのご活躍を期待するとともに、心より応援申し上げます。

埼玉県思いやり駐車場

障がいのある人や要介護状態の人、妊産婦など、歩行が困難と認められる人に「利用証」を交付し、公共施設や商業施設などに設置されている「車椅子使用者用駐車区画」および「優先駐車区画」の適正利用を推進する制度です。

交付対象者

身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、難病患者、介護保険要介護1以上の高齢者、妊産婦(妊娠7か月から)、けが人など

県HP 詳細はこちら!

申請場所

社会福祉課☎(42)8435

※妊産婦については、妊娠7か月目に達していなくても、妊娠に起因する症状などによって歩行が困難となった場合には、ご自身の判断で利用証を使用することが可能です。

※多胎妊産婦は、出産後3年まで使用できます。令和7年4月より前に利用証の交付を受けている多胎妊産婦で、交付済み利用証の有効期間の延長を希望する場合は、社会福祉課窓口で手続きができます。

◆利用証(駐車時にルームミラーに掲示)



車椅子使用者用　その他障害者、要介護者等用　妊産婦、けが人用

◆利用できる駐車区画(イメージ)



問合せ　埼玉県福祉部福祉政策課☎048(830)3223

文芸

若草俳句会

今月の季題「麦酒(びーる)・夕焼」および自由題

岳ビール　半分づつの夕餉(ゆうげ)かな　林綾・幸手市千塚

屋上の　夜風たのしむ生ビール　滝川剛志・幸手市香日向

夕焼けの　播州龍野(たつの)鐘の音　沼尾光英・幸手市香日向

大夕焼　吸ひ込まれゆく三輪車　鴨田とし子・幸手市中

夕焼や　波浮(はぶ)の港へポンポン船　鈴木佐一・久喜市栗橋東

梅干しや　母の残せし壺ふたつ　渡辺紀雄・さいたま市

青空に　折鶴かかげ広島忌　草野貞子・幸手市香日向

▼若草俳句会会員募集中
○日時▸毎月第2土曜日 13:00～16:00／○場所▸中央公民館／○問合せ▸林さん☎(43)1058

燎原短歌会

ひる時の　木下に二羽の雀きて　尾上喜子・栄六

陰の範囲の　動きつつまし　尾上喜子・栄六

さう言へば　SNSの無き時代　こころでものを　考へてゐた　森暁香・緑台一

四十六年の　読書会に幕おりぬ　友との繋がり　明日あるかぎり　大熊昭子・東五

▼燎原短歌会会員募集
○日時▸毎月第2木曜日 13:00～15:00／○場所▸中央公民館／○問合せ▸澤田さん☎(43)2448

～守り伝えよう～ みんなの文化財



天神島の歴史を今に伝える ～天神神社の貴重な文化財を公開～

問合せ　郷土資料館☎(47)2521

平安時代の公家で漢学者・歌人の菅原道真(すがわらのみちざね)を天満天神、天満大自在天として神格化した天神信仰は日本各地に広がり、今でも多くの信仰をあつめています。市内にも天神神社があるほか、「天神島」という地名があるため、「天神」という言葉には特に親しみを感じている人も多いことでしょう。大字天神島に鎮座する天神神社では、33年に一度、本殿の御開帳が行われる「三十三年祭」という行事があり、令和8年(2026)10月31日に、この「三十三年祭」が行われています。

郷土資料館では、これにあわせ天神神社が所蔵する版木や古文書などの市指定文化財を展示する特別展を、令和9年1月31日まで開催しています。展示では、まず、古河公方(こがくぼう)の家臣で幸手城主の一色氏が領内に鎌倉の荏柄(えがら)天神社を勧請(かんじょう)した「一色五天神」の一つとされるこの天神神社の起源や由来を探るため、伝えられた縁起について紹介します。

また、当社には、室町時代の応永7年(1400)銘の棟札(むなふだ)をはじめ、埼玉県内で最古の絵馬と考えられる江戸時代初期の天神像絵馬のほか、バラエティー豊かな天神像が彫られた護符(ごふ)の版木が多数残されています。なかでも護符の版木を調べた結果、江戸時代の寛政期に天神神社の別当(べっとう)を務めた満福寺住職の秀蓮が、京都の北野天満宮と積極的にかかわりながら、当社の霊験(れいげん)を高め発展させようとした姿が見えてきたのは大きな成果と考えています。さらに、天神神社と菅原道真の年忌行事との関わりのほか、33年ごとに開催されてきた「三十三年祭」の歴史について紹介しています。

この展示をとおして、長い歴史のある天神島の天神神社について、市民をはじめ多くの人に知っていただき、ふるさと幸手の歴史の魅力とその奥深さに触れてみてください。



▲歴史ある天神島の天神神社



▲京都の北野天満宮との関係を示す束帯天神像の護符